

大杉谷国有林からの手紙

15通目 ~今年度の取組~

4月、全国各地から桜の便りが届く頃、大杉谷国有林も、長い冬の眠りから覚め、寒さに耐えていた木々達も、様々な色をまといはじめ、私たちの目を楽しませてくれます。

来週の21日には、山開きが予定されており、ゴールデンウィークには、大杉谷の渓谷美に触れるため、多くの皆さんが、ここ大杉谷を訪れてくれることをいまから楽しみにしています。

冬の間、唯一のアクセス道である大台林道で、私たちの行く手を阻んでいた林道の残雪も日ごとに少なくなり、どうにか車で現場に行けるようになりました。ついに、今シーズンのお仕事、スタートです。

今回は、今シーズンのスタートに合わせて、今年度に、大杉谷国有林で計画している間伐などの森林整備やシカ被害対策の概要について、ご紹介します。

(1) 水源地としての森林の整備

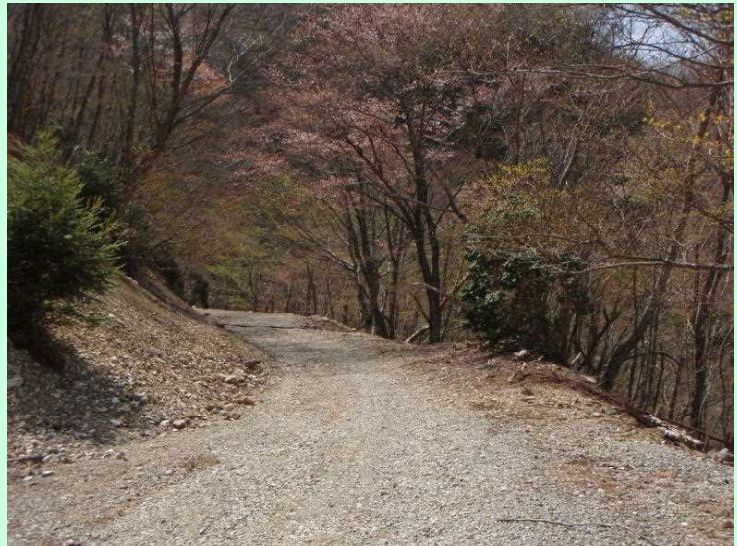
日本有数の清流である宮川の源流部に位置する大杉谷国有林は、面積4,380haでその48%が、スギやヒノキの人工林となっています。

これらの人工林は、先人達が、山に泊まり込み、黙々と植え、大切に育ててきた森林です。

この源流の森林が、水源涵養機能などの公益的な機能を十分に発揮できるように、毎年、間伐などの森林整備を行っており、今年度も70ha

(甲子園球場18個分)の間伐を行います。この間伐により林の中に光を入れ、下層植生が元気に育つ、健全な森林を造っています。

また、未立木地(シカの食害によって樹木がなくなってしまった箇所)の植生回復に



陽の当たる林道で見つけた春の気配



森林植生の回復を目指す地池林道周辺の未立木箇所

については、昨年度は、この取組を多くの人に知ってもらうために、林道沿いにモデル箇所を設置しました。今年度は、季節移動個体群の経路であり、未立木箇所の集中している地池林道周辺での植栽を実施します。

今回は、これまで実施してきた、防護柵の設置や大杉谷国有林で採取した種から育てた地域性苗木を植栽に加え、新たに現地の転石を利用し空石積工による林地の安定化に取り組むこととしています。また5月には、県や市町、森林組合の皆さんに参加してもらい、現地学習会を行う予定です。これからも、新しい技術を取り入れて、一日でも早く、少しでも多くの森林を緑に戻していけるように頑張ります。

(2) シカによる森林被害対策

次にシカ被害対策です。昨年度の緊急捕獲事業では、今年度から地域性苗木の植栽を行う地池林道周辺で、45頭のシカを捕獲しました。

委員会では、糞塊法による生息密度調査やGPSによる行動特性調査なども踏まえ、事業効果の検証を行いました。その結果、森林植生の確実な回復を図るため、引き続き、地池林道周辺において、わなによるシカの捕獲を行うとともに、自動撮影カメラによる出没状況の把握等により、捕獲効果の検証を行うこととなりました。また、定住個体群の効率的な捕獲を行うため、捕獲時期を昨年度より前倒しし、6月から12月までとしました。

また、捕獲実施箇所には、ツキノワグマやカモシカが生息しているので、錯誤捕獲が発生しないよう、出没状況を踏まえたわなの設置箇所の選定や見回りの徹底を行います。

今後とも、各種データを収集・蓄積・分析するとともに、専門家や地域の皆さんの意見を聴きながら、森林植生の回復につながるシカ被害対策を進めていきます。

新たな取組として、奈良県との県境部におけるシカ被害の軽減を図るため、ツキノワグマの錯誤捕獲が少ないと言われる首用くりわなを使い、上北山村と環境省近畿地方環境事務所と連携捕獲を試行します。

もちろん、今年も、秋頃に大台ヶ原・大杉谷周辺で、「ボランティア参加による樹木保護活動」も予定しています。リピーターの皆さんはもちろんですが、この手紙を読んで興味を持って頂いた皆さんもぜひご参加ください。お待ちしております。

三重森林管理署では、今年度も、これらの取組を確実にいき、大杉谷国有林が、水源の森林として、地域の財産として、その魅力を高めていきます。その取組状況や成果については、この手紙でお知らせしますので、今年度も、よろしくお願ひします。



事業の検証を実施したシカ対策検討委員会

(発行:三重森林管理署 尾鷲森林事務所 地域統括森林官)